

日本医師アマチュア無線連盟会報

No.64



「初日の出」JH7QFA 渡辺 孝志(宮城県)

新年の御挨拶

MARS 会長 JA7AOM 及川 忠人 (岩手県)

新年明けましておめでとう御座います。日本医師アマチュア無線連盟の諸先生方におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

さて、本年4月5日(木)から8日(日)には第27回日本医学会総会が大阪にて開催される予定であり、その交歓行事としてMARS総会(4月7日)の開催準備を前会長東條純一先生

を中心に進めて頂き、そのご苦勞に心から感謝申し上げる次第であります。丁度12年前の1月17日の阪神淡路大震災時にアマチュア無線による非常無線が活躍し、その詳細がMARS会報に記載されたことを思い、振り返りながら災害時のアマチュア無線についての講演会や記念局の運用等、MARSの今後の方向にあり方を示唆する素晴らしい内容の総会企画となり

ましたことを感謝申し上げます。是非とも一人でも多くの会員諸先生方のMARS総会へのご出席を心からお待ち申し上げる次第です。

第27回日本医学会総会2007大阪は『生命と医療の原点』-いのち・ひと・夢-との内容で企画されて、その内容が素晴らしく、近代医学の源流と「水都」大阪につながるイメージと「医学の原点から将来への展望」をも含めた素晴らしい医学・医療の学びの場となることが期待されております。昨今、自然災害の多発、温暖化等の地球環境の変化、そして加えて国際情勢の不安定な現状を振り返るとき、我々が意図する災害時の初動期の情報確保に関する「アマチュア無線の役割」は極めて重要な使命と役割があると痛感する次第であります。

小生が医師免許を取得後医局の初年兵としての修練時代であった昭和46年7月30日に、盛岡市西方零石町で全日空機と自衛隊機との衝突事故があり、多大な犠牲者を出し、その時にJA7DF岩動隆一先生のご指導とご活躍で災害現場と岩手県医師会との非常無線が行われたことは有名で、岩手県医師会史に記載されている災害時のアマチュア無線の貴重な活動記録であります。その時には小生も現場に出

動要請された医師の一人として活動し、これ以上に悲惨な場面は未だに経験がない程の大災害でありました。特に「unable to control, unable to control !」と叫びながら殉職された副操縦士のT氏はたまたま関西学院出身のクリスチャンで、小生のお世話になった内丸教会中条和哉前牧師の司式のもと、盛岡市の報恩寺で讃美歌を歌い弔いの行事を行ったとのことを伺い、一年後に出版された辻氏の追悼集には言葉に絶する涙を誘うものがあり、二度とあってはならない事故であったことを痛感し、大災害に連なる決して忘れられない事柄でありました。

正月からのMDネットのコンディションが必ずしも良くない中に JR2IZO 中村先生を中心に毎週水曜日に 3.568MHzと 7.060MHzのHFバンドで十数局が参加し、MDネットが運用されております。様々な時代の変革とうねりの中で、アマチュア無線の使命と役割がこれほど問われている時代はないと思います。今年もMARS日本医師アマチュア無線連盟の諸活動への諸先生方のご参加とご支援ご協力を心から御願い申し上げまして、遅ればせながらの新年の挨拶に代える次第であります。

第27回日本医学会総会交歓行事アマチュア無線大会 及び 第31回MARS総会のご案内

日時 平成19年4月5日(木)～8日(日)

会場 ホテルグランヴィア大阪 JR大阪駅構内

Tel 06-6344-1235 Fax 06-6344-1130 E-mail granvia@hgo.co.jp

(新幹線新大阪よりJR5分、伊丹空港へリムジン、関西空港へJR又はリムジン)

行事日程

- * MARS 医学会総会記念局の開設 4月5日(木)～8日(日)
5日～7日を中心に開局 記念 CALLSIGN 申請、開設場所を検討中
- * MARS 総会 講演会 懇親会 4月7日(土) 同ホテル 20F
開場、受付 16時30分より 20F 孔雀
MARS 総会 17時15分 20F
講演会 18時00分～20時00分 20F
「阪神大震災における医師の初動体制」
神戸市医師会副会長 本庄 昭 先生
「大災害における非常通信」
アマチュア無線局 JA3AA 島 伊三治 OM
懇親会 20時00分～22時00分 20F 鶴寿
- * エクスカーションと記念局移動運用 4月8日(日)
ホテル発 午前8時 南阪奈道路経由奈良明日香村探訪
昼食 奈良市へ移動 老舗 奈良ホテル にて 昼食
第二阪奈道路経由 大阪へ 16時30分～17時頃 大阪市内着

日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、すでに30年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

- 1) 総会と懇親会
毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。
- 2) 毎水曜日の朝、3.5及び7MHz帯でロールコール(MD ネット)を行っている。
- 3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を年2回発行している。
- 4) MARS 医学アワードおよび MARS 医学アワードⅡの発行。
- 5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>
(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒577-0058 東大阪市足代北 1-16-20

東條医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 06-6781-0076

F A X 06-6781-0078

E-mail jaef.tojo@nifty.com

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

MARS 会員都道府県別分類

(J A 1) 21局			(J A 5) 3局
東京都 JA1FF	JA1BOW	JR1VUF	香川県 なし
	JF1SXY	JK1AIN	徳島県 JA5GPJ
	JP1HIS	<u>JH7WKU</u>	JA5POS
神奈川県 JH1IAA		<u>JR9FQO</u>	愛媛県 なし
埼玉県 JR1CDJ	JR1JIC	JE1MMK	高知県 JH5KAJ
	JL1LRJ	<u>JA3HQ</u>	(J A 6) 5局
茨城県 JI1VAH			福岡県 JA6BMB
群馬県 JA1KXT	JR1SJD		JA6RQK
千葉県 JM1BIX			JH6IBM
栃木県 JF1EJS	JO1RTV		JG6DAO
山梨県 なし			大分県 なし
(J A 2) 10局			熊本県 なし
愛知県 JA2DQH	JH2QBQ	JR2AXV	宮崎県 なし
	JG2XEJ		鹿児島県 なし
静岡県 JA2BIV	JE2ANG	JE2KKI	佐賀県 JR6EZJ
	JO2DBR		長崎県 なし
岐阜県 JO2IXU			沖縄県 なし
三重県 JR2IZO			(J A 7) 22局
(J A 3) 33局			青森県 JA7VAB
京都府 JA3ARY	JA3ASU	JH3SQM	JR7BWP
	JH3SQN	JH3SRC	秋田県 JH7MSL
	JR3HGY	JR3JFQ	JE7MMC
	JF3NXJ	JF3ITN	岩手県 JA7AOM
大阪府 JA3BQT	JA3LDH	JA3WKF	JA7PPA
	JH3AEF	JH3MWR	JH7IIR
	JR3LJI	JR3MCI	JA7QFA
	JF3EKP	JJ3MIG	JH70LB
滋賀県 JF3PMG	大塚博紀	JL3SIK	JH7XGQ
兵庫県 JA3XED	JH3GOB		JR7QWT
奈良県 なし			JE7EDF
和歌山県 JH3TCC	JR3SIK	JF3JON	JG7CRJ
	JI3CIN	JJ3KUL	山形県 なし
	JN3ASW	JM3BCQ	宮城県 JA7EVM
(J A 4) 5局			JH7CAI
岡山県 JH4TIC	JE4EWM(exJA5LDZ)		JH7EQW
	JG4JFW		JR7CAD
広島県 JH4DPL	JH4UYB		JM7USW
鳥取県 なし			福島県 JA7FHH
島根県 なし			JA7RTM
山口県 なし			JE7GFM
			JJ7BRL
			(J A 8) 4局
			JA8FOH
			JA8JDQ
			JA8RSJ
			JI8MLV
			(J A 9) 3局
			富山県 なし
			石川県 なし
			福井県 JA9SN
			JH9HDD
			JE9RWF
			(J A 0) 4局
			新潟県 JA0CEP
			JA0HGN
			JH0LME
			JE0BWH
			長野県 なし

_____は他エリアからの移動局

計 110 局 (2007 年 2 月現在)

平成18年度 MD ネットをかえりみて

JR2IZO 中村 仁 (三重県)

平成18年度の MD ネットは3.5MHz、7MHzともに52回行われました。

3.5MHzの参加局は(括弧内の数字は参加回数を示す)JH7QFA(50).JR2IZO(49).JH3GOB(49).JR3HGY(48).JA1KXT(47).JH3AEF(45).JR1CDJ(33).JA7AOM(27).JL1LRJ(24).JR1VUF(19).JA7VAB(14).JA7RTM(11).JE0BWH(8).JF3JON(6).JF3NXJ(2)の15局で、総参加局は432局(平均8.3局/回)であった。コンディションは1月～2月中頃までは「コンディション」が悪く、2月15日より4月19日までは近距離、遠距離ともにM5でQSOできた。4月末より10月中頃まではノイズが多く7エリアとは交信困難なことが多かった。11月、12月頃より近距離、遠距離ともにM5でQSOできるようになってきた。参加局とM5でQSOできたのは14回でした。

7MHzの参加局は(括弧内の数字は参加回数を示す)JR2IZO(49).JR3HGY(49).JH3AEF(47).JH7QFA(47).JH3GOB(46).JA7AOM(39).JI3CIN(36).JA7VAB(27).

JA1FF(26).JR1CDJ(25).JL1BGP(21).JF3JON(19).JE0BWH(18).JL1LRJ(13).JF1EJS(10).JH2QBQ(10).JA1KXT(9).JH6IBM(6).JR6EZJ(6).JR1VUF(1).JA2BIV(1)の21局で総参加局504局、(平均9.7局/回)であった。全般にコンディションが悪く、参加局とM5でQSOできたのは9回しかなかった。又開けるのが遅くネットの終了近くに開けることが多かった……**JA1FF**:やっとながりました。今年もよろしく(1/18)。**JR1VUF**:お久しぶりです。ノイズに弱いのでご無沙汰していました(2/22)。**JL1BGP**:やっとながらに聞こえるようになりました(4/5)。**JH2QBQ**:みなさんの声が聞こえるのは久しぶりです(4/5)。**JA7VAB**:いつもワッチしていましたがやっとながりました。あけましておめでとうございます。今年もよろしく(1/25)……このお空のコンディションは今年も続いており3.5MHzが聞こえ出したところには、開けていない7MHzにQSYという状況です。早くFBなコンディションになってほしいと願っています。

平成18年度(7月～12月)MDネット参加局の近況

JA1KXT 相田信男、JR2IZO 中村 仁

JA1FF:8月のお盆に槍ヶ岳にゆきます(7/25)。スキップFD、槍の診療所は夜になると9℃位に下がり石油ストーブをいれていた(8/23)。MDネットが終わる頃になって59になりました(9/13)。連休に谷川岳に行った(10/11)。

JA1KXT:長い梅雨でびちょびちょ。近くにヤマユリが群生していて、もうすぐ咲きそうです(7/25)。台風7号が来そうなので3.5MHzのアンテナを降ろしています。花屋で貰った黒い球根を植えたら白い百合(カサブランカ)が咲いた(8

／9)。日陰を作りたいのでヘチマを植えました(8/30)。今朝は19℃、涼しくなった(9/6)。明日から学会で大阪(吹田)に行きます(9/13)。バーレーンから MARS AWARD の申請があった(10/4)。猫がシャックの机の上を占領して動こうとしません(10/11)。リニアアンプの調子が悪く入院中(11/15)。悪性の風邪にやられて MD ネットに出られません(12/6)。昨日は-3℃でこの冬一番寒かった(12/20)。12月に入り車のタイヤをスタッドレスに替えたが、外気温は8℃と異常な暖かさです(12/27)。

JR1CDJ:埼玉は台風7号の影響で雨(8/9)。曇り27℃、蒸し暑くなりそう(8/23)、7MHzは近距離スキップで1エリアは取れない(9/6)。7時頃に聞こえるようになりました(9/13)。8日に乗鞍岳に行ったが雨、上高地をまわってきた(10/11)。11月8日に南極観測50周年の式典があり、行ってきた(11/15)。今日は私の誕生日で69歳になりました(12/6)。外気温10℃晴れ、7MHzは全く聞こえません(12/27)。

JR1VUF:湯河原に行かなくなって、家でぶらぶらしており、出かけないと鬱になりそう(7/25)。先々週渋川のオチアイダナに行き、鮎を食べ、志賀高原に行った(9/6)。27日より1泊2日で八幡平、11月5～6日には家内と磐梯、那須に行きます(10/18)。土曜日に秋葉に行った。100万円もするリグが並んでいた。2バンドのVX6を買ってきた(10/25)。6時10分ころより3.5MHzはローカルスキップがとれて、皆さん59になった(11/22)。来週東北に行きます(11/29)。

JF1EJS:7時まえに59になりました17℃涼しくなりました(9/13)。今日は雨、IZOとAEFしかと

れない(9/27)。那須塩原市に変わりましたので新しい QSL カードを作りました(10/4)。連休に MARS 以来の松島に行った(10/11)。

JL1BGP:東京は曇り、気温が上がらないので助かっている(8/2)。台風の影響で強い雨です(8/9)。今年の7MHzのコンディションはおかしい(9/6)。突然コンディションが良くなった。先日は同級会に行った(10/11)。

JL1LRJ:週末には軽井沢に行き、時々GPで声を出しています(7/25)。1200MHzのリグが無くなるので10台ほど集めました(8/2)。蒸し暑いほど軽井沢に行くのが楽しい(8/30)。ぼちぼちDスターを始めた(10/11)。暖房が無いのでMDネットになかなか出られません(12/20)。今年最後のMDネットに出てきました。7MHzは何も聞こえないが3.5MHzは良く聞こえる(12/27)。

JH2QBQ:7エリアしか入らないのでいつもタヌキワッチです(10/18)。コメントのGP(CHA250BX2 50～3.5MHz)をあげた。SWRは下がるが何も入らない(11/8)。

JR2IZO:7月24日は名張市の花火大会でしたが、梅雨は明けておらず気温が低いのでさっぱりです(7/25)。お盆はAJAハントのため友人と7エリアに行きます(8/9)。お盆の休みには友人と7エリアをまわってきた。途中QFA,RTM局のアンテナを見せて貰ってきた(8/23)。CONDXが悪く1エリア全く入感せず(8/30)。8日は天気が良かったので鷹を見に行ったが風が強くさっぱりだった(10/11)。10月22日は京都の大門先生宅でPCと写真を見せてもらい、大門先生に脚立をお借りして時代祭のビデオを撮りに行った(10/25)。11月5日に京都に行って保津川下りを楽しんできた。紅葉には少し早かったが所々の桜が満開だっ

た(11/8)。7MHzのコンディションは最悪で、ローカルスキップで満足に聞こえるのはJA7VAB局のみ(11/22)。7MHzのcondx悪く7時前にAOMのみ59(11/29)。7MHzのcondx悪く6:47にAOMのみ59(12/6)。3.5MHzのcondx悪く、スプリットに(12/13)。**JH3AEF**先週芦屋の花火大会を船の上から見てきた(7/25)。いくら呼んでも取ってもらえずリットが入っていた。新しいカントリーが2つ(モンテネグロ、アメリカンサモア)増えたが何とかできた(8/2)。先日スコットランドに行ったがハムのアンテナは見られなかった。大阪は昨日大変な雨で傘をさしても傘が役に立たなかった(8/23)。大阪市立美術館にプラド美術館の作品展を見に行った(8/30)。大阪城に行ったが、涼しくなった(9/6)。医学会総会で記念局を開局したいが、場所が貰えるか、補助は貰えるか交渉しています(9/27)。数日まえに交通局が御堂筋の銀杏を落とした(10/18)。モンテネグロのカードが届いた(11/1)。御堂筋の銀杏はほとんど落ちたが、紅葉にはまだ早い(11/8)。先日南極観測船が出港したが、昔ヒマラヤ遠征中の西堀英三郎さんと21MHzでQSOしたのを思い出します(11/15)。10MHzで5A(リビア)とコンタクトできた(11/29)。数日前より咳が強く声が出なくなった(12/6)。来年度のMARS総会の講演会には①神戸震災時に関係したMDの経験談②ハムのボランティア活動について(JA3AA)を予定(12/13)。

JH3GOB:天気がやっと回復して太陽が見えてきた(7/25)。昨日は三木市の花火大会でした(8/2)。今日は全員入感。今SSTVのコンテストをしている。CONDXが良くヨーロッパの局が見えます(8/23)。SSTVのコンテストも終わ

ってぼけっとしている(9/6)。2~3日前にMARSニュースが届きました(9/13)。今日は皆さん全部59です(10/18)。今日はわりに暖かい(12/27)。

JR3HGY:2週間の休みも雨ばかりでさっぱりです(8/2)。日中は38℃、扇風機を掛けてごろ寝です。暑い暑い(8/9)。毎日暑い、毎日早朝庭の草むしりをしています(8/23)。昨日はツクツクボウシが鳴いていた。クマゼミは鳴かなくなりました。秋です(9/6)。個展も今回で3度目、無事済んだが疲れが残った(10/4)。先日北アルプスでガイドがおりながら遭難があった。ガイドは何をしていたのか(10/11)。22日は医師会の招待でバス旅行です(10/18)。昨日はすごい風でよその家の落ち葉が我が家の前に貯まって掃除が大変です(11/8)。京都の紅葉は真っ盛りです(11/22)。3.5MHzでもcondx悪く6:23に59になる(11/29)。今日は私の誕生日で83歳になりました(12/6)。気温が高く紅葉の葉がパラパラ落ちずに、ちぢまって木に残っている(12/27)。

JF3JON:昨日の雨で気温は26℃。少し涼しくなった(8/23)。21℃で今年1番涼しい(9/13)。来年もよろしく(12/27)。

JR6EJ:1, 2, 3, 7, 0各局良く聞こえる(10/4)。おはようございます。みなさんよく来ています(10/25)。

JA7AOM::日中は猛烈に暑い(8/30)。八幡平のナナカマドの紅葉が始った(9/27)。今年の八幡平の紅葉は少しくすんでいる(10/18)。CMの紅葉も最終段階です(10/25)。八幡平は綺麗な紅葉で晩秋です。今日は1エリアが取れず残念(11/1)。昨日は雨、風、雷で大変だった(11/8)。

JA7RTM:今日は雨です(7/25)。

JA7VAB:三沢の天気は、梅雨が明けたように晴れています(7/25)。ねぶたが今日からはじまります(8/2)。昨日は26℃、今日も暑くなりそう(8/23)。日曜日には三沢航空隊の航空ショーがあります(9/6)。八甲田の紅葉が始まった(9/13)。八甲田も岩木山も紅葉、りんご園のりんごも袋がはずされ赤いりんごが FB(10/11)。朝晩冷え込み暖房を入れています。青森や下北では50cmの雪です(12/6)。小雨、暖かく雪はありません(12/27)。

JH7QFA:曇り、このところ低温です(8/2)。土日月曜日は親潮北上ヨットレースですが台風が心配です(8/9)。9月17~23日にフランスに行き、友人とレンタカーで廻ります(9/6)。ルアーブルでレンタカーを借りノルマンディ、ナント、ノアムラ1500Km を周った。フランスは暑く半袖ですごした(9/27)。今日の7MHzのコン

ディションは良く久しぶりに1エリアが聞こえる(10/11)。木曜日より那覇に行きます(10/18)。今週末は例年の如く、松島湾の島で花火を上げ、パーティー。MMもそろそろ終了です(11/8)。今年の7エリアの11月のWXは最悪で今日も嵐です(11/22)。3日より寒い、寒い、雪はちらちらです(12/6)。仙台は昨日より光のページェントです(12/13)。土日はマリタイムのクリスマスパーティーを舟の中でやります(12/20)。

JE0BWH:梅雨明けが遅れ農作物の成育が心配です(7/25)。梅雨明けしたが今ひとつはつきりしない天気です(8/2)。お盆には今年も佐渡にヨットで行きます(8/9)。今日も晴れて暑くなりそう(8/23)。今までコンディションが悪く声を出せなかった(10/4)。紅葉はまだ早い(10/11)。

医学会総会参加にむけて

—アワードハンティングの楽しみ—

de JA1KXT 相田 信男(群馬県)

I. はじめに——もしかしたら妙だが

こいつは褒めてもらってもいいのではないかなと思うが、どんなに遅い帰宅でも、どんなに酔っ払っていても(これは珍しいことではないが)、毎週火曜日の夜にはリグからの接続スイッチを80メートルのアンテナに切り替え、アンテナ・チューナーを調整する。周波数は明早朝「CQ MD-Net」と声を出す 3.568MHz である。(この準備を褒めてもらいたい)。だから火曜日の晩にはその周波数で出ている局の QSO をほんの

暫くだが聴く羽目になる。

でそんな折、おどろいた話をワッチした。「あるアワード」(が、どれなのか私は寡聞にして知らない)のルールは「サフィックスを AAA から始めて ZZZ まで揃える、えらく面倒なもの」だと謂う。流石の私も、こんなアワード・ルールの下に次々と追いかけていくなんで、アワード・ハンターって、もしかしたら妙な人種だと思った。(これはこのルールと、ハンターへの敬意を含んだ文章です Hi。)

このQSO中のOMが曰く。「価値観は多様で、こんな風なことをやっている者もいるのだが、でもQSL発行を願う度に自分の価値観を押し付けているようにも感じる」と。いやいや、確かにそうかも知れない。アワードについて語るときには、この「自分の価値観の押し付けかもしれない」という微かな引け目を感じることもある。でも、アワード・ハンティングに関して語り始めたら止まらない。もしかしたら(もしかしなくても)妙な習性なのだけれども。

で、聞いてくださいな。

II. 緊急通知——記念局運営とアワードのボーナス・ポイント発行のこと

当ニュースの他の記事で詳しく報じられていることと想像するが、この度のMARS総会の第27回日本医学会総会参加を記念した「医学会総会記念局 8J3GAJMC(仮称)」の開局・運営が予定されている。素晴らしい企画で、ご尽力のOM各局に感謝申し上げたい。と共に、皆さんで大いに楽しみましょう。

合わせてアワード係りとして、今回の記念局開局時期に合わせて、下記の通り『MARS医学アワード・II』におけるボーナス点を追加発行する。(なお『MARS医学アワード(旧版)』にはボーナス点をつけない)。

まず『MARS医学アワード・II』の基本ルールをおさらいするところなる。

- 1) 世界中の医師が運用する局との交信によるQSLを集め一定のポイントを取得する。
- 2) 交信はバンド・モードの組み合わせを1単位とし、また運用場所が異なる毎に有効。局の性質により次のようにポイントを与える。MARS会員局5pts.、JM1ZZM30pts.、海外の医師局3pts.、それ以外の医師局1pts.。

3) 会員局との交信による25ポイントを含む100ポイントをもって基本アワードを発行し、以後50ポイント毎にエンドーズメント・ステッカーを発行。

さてこの度のボーナス・ポイントはこうする。:—

1) 記念局免許の日から本年(2007年)5月31日2359JSTまでの期間のQSOによるQSLに限定して以下のポイントを与える。なお記念局は基本アワードにおいてもエンドーズメントの際にも「会員局」と同等にみなす。

2) QSOした局の性質によるポイントを次のように定める。①記念局(ゲスト運用を含む):75pts.、②MARS会員局:10pts.、③JM1ZZM:50pts.、④海外の医師局:5pts.、⑤それ以外の医師局:3pts.。

3) エンドーズメントは元ルールの通り。

4) いずれのQSOも、この期間中は他の期間のQSOとは別にカウントできる。

従って、会員諸氏とのこの期間中のQSOについても(その他の局についても)、すでに(また今後も)発行済みのQSLとは、同一バンド・モードであっても別個に有効になる。さらに期間中の記念局、クラブ局の(各地移動を含めて)活発な運用へのご協力をお願いしたい。

III. だからなに?——アワードハンティングにふれて

だから、何なんだ? なんて訊かれたら、本当に困ってしまうが、その答えとしたら、それは「ハムの楽しみ方のひとつ」なのです。器械を組み立てて楽しむ方もいる。ないし、そういう楽しみ方もある。新しい方式、例えば珍しいバンドの実験もあるし、開発途上のモードを使うパイオニアとしての楽しみ方もある。そしてまた、珍しい場所の局との交信を楽しむ方も、珍しい場

所から電波を出して楽しむ方もいる。で、交信の証に交換した QSL カードを用いてアワードハンティングに楽しみ方を見つける人も、いるわけだ。

私に即して報告すれば、こうだ。田舎の中学生がたまたまラヂオを作り、まったくの偶然でハムを受信して、やがてJARL登録のSWLとなり、最初に目指したのはJARL発行SWL-AJD(All Japan District)の取得で、今日では考えられないほど時間をかけてこれを達成した。懐かしく思い出す私自身が、もはや不思議に思えるほどの長い時間だった。と言うのも後に再開局した私は、夢中になって追いかけた One Day AJD を結局は手に入れられたし、昨年は難しかった50メガでのWAJA(全都道府県交信)も完成できた。あるいは一年間にわたって毎日、CWでの交信を続けることで、ようやく得たアワード。こんな風に、これまで取得したアワードについて語りだしたらキリがない。既に当ニュースで報じられている、JH3AEFやJA3LDH、また他の各OMによるDXCC関係のアワードハンティングには、もっと沢山のご苦労と興奮があるのだと思う。

で、「だから、何？」と問われれば、「お願いですから、私の楽しみ方に付き合ってください」とお願いする他はない。つまり多少の「後ろめたさ」とは、そんなところなのである。

さて、そこで当連盟発行の『MARS 医学アワード・II』だけれども、アワードハントから見た楽しみひとつは、エンドレス(会員は無論のことDr局との交信の度にポイントが取得できる)で、しかも小まめに達成感を味わえるところ(エンドーズメントシステム)だと思う。

「で、だから」、会員各局には、ますますアクティヴに on air され、多くの局と交信の上 QSL

を発行していただきたいと考える次第です。

IV. おわりに——やっぱり多少妙かもしれないけれども

JAG(Japan Award Hunters Group)という、1977年に創立し今や700名を越える会員の集まりがある。(ホームページは<http://www.jarl.com/jag/>)。アワードハンターであればここへの入会がひとつの目標になるかと思うが、入会には同グループが認定したアワードを30枚以上取得する必要がある。この度(2007年2月)発行されたニュースによると、『MARS 医学アワード・II』が入会認定アワードリストに掲載されている。関係各位への感謝にたえないが、恐らくこれで、我がアワードへのリクエストが以前にも増してくるはずである。

如何でしょう？ でもやはり、多少奇妙ではありませんか？——アワードハンティング。まあそう仰らず、ご協力いただき、いずれ一緒に、アワードハンティングを貴局の楽しみ方のひとつになさいませんか？

追記——でもやっぱり、結局は妙かな？

ニュース編集のご苦労をいただいているJF3JON田中OMに上記の原稿をメールでお送りした翌日に、ドイツから一枚のアワードが着いた。写真のものだ。

実は私はひどい球技オンチで、その私が2006年サッカー世界選手権大会の記念アワードを入手したと言うのだから、笑ってしまう。「球技オンチ」ぶりはこんなものだ。例えばかつての7メガのMDネットで、JA1FFとJR5WSVお二人のOMが野球の話で盛り上がっていても、私とすると何だかさっぱり理解できなかつた一人(だけ)なのであった。あるいはまたこんなこともあつ

た。ずいぶんと昔の出来事だけれども、私の同級生の精神科医がアメリカに留学中のことだ。大変親しい友達で、頼りにもしていたし、彼の計画を応援もしていた。この友人は熱烈な読売ジャイアンツファンだった。米国留学という、私にはとてつもなく苦労が多そうに想像される彼の、その苦労を私なりのやり方で労おう、エールを送ろうと思って手紙を書いた。曰く「今年の日本のプロ野球は、ジャイアンツではなくライオンズが優勝でした」だった。早速友人からの返事「ふたつのチームはリーグが違います。私はジャイアンツファンである前に野球ファンです。楽しい便りをありがとうございました」と。

元に戻ろう。そんな球技オンチの私がサッカー世界選手権大会の記念アワードを入手したと言うのだから、とっても笑ってしまう出来事に違いない。でも、そんな私にもとても楽しめたアワードだった。アワードルールはドイツの16地区の局との QSO の他、この大会に合わせて免許になった数種類の記念局との QSO を含んで、50のドイツ局との交信を必要とした。私が規定の記念局また地区との交信を終えて、(実はその時点でルールについて改めて気づいて)残りのドイツ局との QSO が必要だと知ったのは、限定期限終了の13日前だった。

先に述べたように、私は球技オンチなので、実際球技関係には興味もない。サッカー大会がどこで、どんな規模で行われようとも、私には関係ないのである。が、今回はにわかにならなくて、このアワードを追いかけることになった。と言うのも、私が尊敬するアワードハンターの一人の OM が、このアワード取得は結構難しいと書いたインターネットの記事を見つけたのも一因だったと、ふり返って思う。

ね！ アワードハンターって、やっぱりちょっ

と妙じゃありませんか？

残りの日数は短く、どのバンドをワッチしてもドイツの局は、記念局以外には聴くことができなかった。のだけれども！ 私は勇気を出して、(多分、ダメもとというよりも、諦める、その目的で)「CQ DL」と、キーを叩いた。しかし驚いたことに、結局5日間に渡って私は予想外のパイルアップをドイツから受け、アワード完成に到達したのだった。



これは「自慢」なのです。合わせて、アワードハンティングという、もうひとつのハムの楽しみ方へのお誘いです。冒頭の記事のように「褒めて」と要求もできはしないと覚悟していますが、この際ニュースに色を添えたい(添えられたかな？ 邪魔か?)と考えて、追加記事をお送りしました。(de JA1KXT)

岩手山噴火防災対策の反省と展望

社団法人 岩手県医師会 岩動 孝

社団法人 岩手郡医師会 及川忠人

盛岡の地にある岩手医大で学生時代を送った筆者達にとっては、昭和40年代の岩手山は岩手医大学生講義室4階からみると、山頂から水蒸気が少し見える程の平穏な活火山でした。火山活動は江戸時代の元禄の忠臣蔵のあった時代であり、自分の祖父母等も知ることのあり得ない長い歴史的時間の経過があり、いわば現代社会の時間感覚には全く感知しない活動でもあると云えたのである。

平成10年6月24日、突然岩手山の噴火の危険性が高まり、臨時火山情報が出されて、松尾村の八幡平温泉郷近辺が噴火の影響を受ける可能性が高いとの指摘を、当時岩手郡医師会長の高橋牧之介先生より電話で連絡を頂いて、まさかと正に寝耳に水とはこのことかと自分の耳を疑いたくなる衝撃を受けました。

翌々日の26日には岩手県医師会が岩手山火山活動対策連絡会を開催して、県医師会会長、副会長、常任理事等15名の関係者でその対応を協議した。岩手医大高次救急センターの谷口繁教授は、比較的小規模な噴火を予測して、緊急受け入れ体制の整備を岩手医大・県立中央病院・盛岡市医師会を中心にその救援体勢を構築する必要があると指摘され、岩手県医師会独自の判断で医療救護団を派遣することも可能であることを実感して、薫をもつかむ心境が一転して感謝の気持ちで一杯となった。

平成10年2月頃から火山性地震が多発

するようになり4月29日と6月24日にそれぞれ盛岡地方気象台から臨時火山情報が発表され、さらに7月10日には臨時火山情報第3号が発表され、岩手山頂が東八幡平病院から5-6キロメートルの至近距離にあるために、東八幡平温泉郷への有事の対応および、東八幡平病院への被害想定時の対応が課題となった。それにしても、激しいマスコミ攻勢には頭を悩まされたが、被害想定やその対策を聞かれたが、マスコミ報道をなるべく控える条件ということで本音をお伝えするという不自然な対応となった。事実この臨時火山情報が出てから、退院の患者さんはいっても入院の患者さんは皆無であり、次第に有感地震の頻度が多くなるにつれて、当直・宿直の時の緊張感は何とも表現しきれない不安感があった。

6月29日夕方に村内のアマチュア無線家8名が当院院長室に集合し、アマチュア無線を用いた、松尾村非常時通信連絡網を整備することに同意を得て直ちに、具体的活動の検討をした。まず毎週1回位の定時通信をすることが必要であるとの認識で一致し、毎週木曜日の正午に定時通信をすることで了承を得ることが出来た。と同時に、超短波(UHF)を用いて、近距離通信を中心とした、アマチュア無線連絡網の整備をする方向となった。

7月より毎週木曜日の定時通信は曲がりなりにも立ち上げて継続され、さらに短波帯

による通信の可能性及び、近距離における携帯無線機の機能の村内での感度の変化等を検討しながら、緊急通信を想定する準備を重ねた。7月10日に臨時火山情報3号が出されて、大規模な噴火の可能性が高いことが、マスコミを中心に報道された。その日は、たまたま他の講演会等の出席のために、帰宅したのが夜の9時頃であり、ビデオに録画された報道を見て、臨時火山情報が出てから約10時間程の経過があり、地元にある我が病院長への連絡不足を痛感し、改めて我が職場における緊急情報連絡手段の確立が急務であることを自覚せざるを得なかった。

8月中旬に、九州大学の前雲仙地震研究所所長の大田先生が県民会館で雲仙普賢岳での経験から火砕流への対応と長期間のご苦勞を学ぶことが出来て、火山防災の奥の深さと困難さを痛感した次第であった。やがてお盆の時期になり、週1回の定時通信を維持するために、同じ病院アマチュア無線クラブ会員の守谷君にご自宅へ戻っていただき、室内からの携帯無線機を用いて交信を試みた。しかし院内緊急体制・防災連絡体制についても、患者さんや家族への心理的配慮から火山活動を目的とした防災訓練は自粛せざるを得なかった。

翌月の9月3日午後5時頃に岩手山西南部に震度6弱の大規模な地震が発生した。折からの火山対策もあり、岩手山の噴火と誤解され、電話が3時間位の間不通となり、災害時の情報通信の確保が急務であることが、はからずも実証されることになり、改めて有事の双方向性無線通信の必要性が叫ばれるようになった。その大地震の日の情報確保は岩手県では困難を極め、地震発生後9時間経過

して初めて被害の状況をまとめることが出来た。震源地の近くの滝上温泉には修学旅行中の生徒が百数十名孤立したが、運良く警察無線により、連絡が取れ、翌日の早朝に陸上自衛隊、県警機動隊のヘリコプターで無事災害地を脱出することが出来て、周辺マスコミも胸をなで下ろした。また、このような経験から、我々が「松尾ネット」として、民間としてのハムネットワークが再度注目されるようになり、有事の際のアマチュア無線の重要性が認識されるようになり、筆者の活動が地元新聞の岩手日報の「人の覧」に取り上げられ報道された。

一方雫石における震度6弱の地震での様々な経験から、岩手県を主体に岩手山山麓の地方自治体等が中心となり、岩手山火山噴火対策防災訓練を医師会も参加して実施することになり、10月18日早朝6時半過ぎに、岩手山が噴火したとの想定の下に、総合防災訓練が我が病院のある地元松尾村の桜公園イベント広場で開催されることになった。折しも台風10号が日本海を北上し、丁度防災訓練を実施する時間帯には暴風雨となり、本番さながらの防災訓練となった。小生も岩手郡医師会からの災害現場への医療班の派遣医師として病院所属の救急車にて現場に急行することになった。現場派遣の前の情報収集訓練として、岩手県医師会情報担当常務理事の岩動孝先生（JH7OLB）からの現場災害情報の伝達をアマチュア無線430MHzのFMで通信を確保し、訓練非常通信を盛岡市の岩手県医師会館と東八幡平病院間で行い岩手郡医師会の要請で救護班の派遣を実施することが出来た。さらに松尾ネットの有志がイベント広場に特設八木ア

ンテナを移設し、仮設テントに移動局を設置する方針が進めたが、折からの暴風でテントが破損したために、急遽派遣された救急車を臨時無線室として使用して防災訓練にともなう交信テストを松尾村・西根町・盛岡市在住のアマチュア局と合わせて15局との交信が成立し、様々な本番さながらの教訓を得ることが出来て感謝であった。これらの内容はすでに岩手県医師会の機関誌いわて医報11月号に掲載されているが、防災訓練にあたり、消防・医師会・行政・警察等の連携が叫ばれながら、なかなかその連携プレイが困難であることを実感した。また隣の西根町でも同じ時間に防災訓練をしていたがその関係者ともアマチュア無線を用いて交信が可能となり、加えて、警察、歯科医師会、薬剤師会等の多くの方が関心を示して、この交信テストに参加して頂いたことはその後のハムネットワークの方向を示唆するものとなつたと思われた。暴風雨下での災害救助訓練は統一性が保持されにくい中で多くの問題提起をされることが多く、実際に噴火が起こった場合の想定とはほど遠い内容になったことを率直に反省しなければならないと思った。特に医師会からの参加者が少ない中でトリアージの訓練はすでに負傷レベルの解かる様な人形を用いて、その現場での役割分担等は準備段階から周到な訓練としては質的にレベルが程遠い内容であったことは反省であった。

9月3日の雫石の地震の後に、岩手山火山活動による地震の回数が急激に少なくなるという、予想に反した現象があり、その中で10月10日には岩手山の東側の薬師岳の噴火を想定した岩手山火山防災マップが岩

手山火山災害対策検討委員会より公表された。盛岡市、玉山村、西根町、雫石町、松尾村を大きく含む被害予想地区は一般住民に大きな心理的インパクトを与えることになった。また10月18日の総合防災訓練閉会式の挨拶で増田県知事は、総合防災訓練は冬季訓練としても実施する計画であることを挨拶で述べたこともあり、岩手山火山噴火防災対策訓練は長期化を予想させることになった。

火山活動のバロメーターである火山性地震の頻度は11月には昨年3月の頻度並にまで低下傾向を認めているが、尚火山性地震は継続して観測されていること等が11月にNHKTVのクローズアップ現代に取り上げられ、岩手山はいまや地震情報を予知する観測器の設置については、前代未聞の体制になっているとのことであり、そのまま噴火せずに収まっていくことを願わずにはおれない思いであった。小生は岩手日報のホームページにある火山情報がGPSにより継時的に表示されている岩手山の膨張率に関心をよせながら、噴火の予知の一判断基準にしようと、ほとんど毎日その変化を観知することを当面の日課とした。

松尾ネットで交信しながら、「元気にこのように情報交換することが出来ていること自体が感謝である」とする声が大きく、山に変化が無く、元気に交信活動が継続できることは有り難いとの思いがそれぞれのアマチュア局に心情にありありと伺うことが出来た。しかし万が一火山活動が災害としての活動が活発化し始め多場合には、その正確で確実な情報伝達が早く行われて、少しでも被害が少なくなるような役割があることは、これ

までの災害時のアマチュア局の様々な実績から明らかである。しかしその災害の予想は人知を超えた面もかなりあり、最新の科学技術を駆使してもその予知の限界は明らかである。それらのことを考えると我々の活動は決して、足を地につけての歩みではないかもしれない。しかしながら、災害がもたらす大きな地域住民への不安が何らかの悪影響を与えていることも事実であることから、災害への防災意識を高めるためには単に行政にのみ責任を問うことではなく、何か民間一般住民もその中で役立つ役割意識を育成することも大変重要なことであると考えその活動を継続することにしたのである。

アマチュア無線と言う趣味をその連携の絆として、多くの多職種の社会人が少しでも地域の防災対策の要として役割を果たしたいと考えている隣接町村、西根町、玉山村等の活動の広がりも実に頼もしい出来事であった。我々の活動が官民一体として防災意識を高めて地域に住む人々に少しでも安心感を与えることが出来さらに、有事には、情報網構築による指示や避難情報の伝達に役立てば望外の喜びと考えたのである。

さて平成14年12月15日に西根町を中心に実施された平成14年度岩手山火山対策防災訓練に、アマチュア無線を利用した通信情報連絡訓練の概要について簡単に書き留めておきたいと思う。

この訓練にあたり平成14年10月11日西根町民センターにて概要説明と第1回の打ち合わせ会が開催された。これまで災害発生初動期の情報確保についての通信訓練をアマチュア無線の「訓練・非常無線」を用いて行ってきていた。平成13年の9月1日

の盛岡市を中心に実施された防災訓練には、災害救助法や県知事等の要請が無くても、「医師会独自で医療班を派遣できるという自治体と医師会との協定」を前提として、岩手県医師会アマチュア無線クラブの岩動先生を中心に各医療機関を結ぶ訓練・非常無線通信を145MHz帯で実施し、様々な意義と反省点を見出した経験を経た直後でもあった。この間各アマチュア局はその状態を傍受し、その後松尾村等のアマチュア局との交信テストを行い、訓練通信を終えることが出来た。この間、ハンディ機（携帯無線機）による通信は如何に短距離であっても通信困難な状況におかれることがあることを痛感し大きな反省点となった。また今回 SSTV による映像情報通信を加えて、被災現場からの映像通信をあわせて行うことができた。このことは音声通信のみの情報より数段質の高い情報が瞬時にリアルタイムに把握できる点では大きな進歩と考えられた。さらに被災地に実際には電源を確保することが困難であることを想定して、自家発電機を装備してその電源で無線機・コンピューターを動かすことが試みられた。また特設のアンテナを張りながら key 局としての通信支援を同時に行うことが出来たことは大きな収穫であった。

またこれらの地元の医療機関等の対応としては医療機関およびその関連施設を擁する筆者の所属する財団法人みちのく愛隣協会では平成10年の臨時火山情報が出されてから、岩手山火山活動対策災害救助計画を立案し、災害対策本部設置についての計画案を策定した。これらは岩手郡医師会災害事故救急医療対策要綱にしたがって、救護班の編成、救護所の設置等の災害対策全般にわたる

準備を進めることにした。財団対策本部の組織構成やその任務を ①情報の収集、伝達、指示②緊急医療体制の支援 ③安全移送の体制確立と受け入れ体制の確認 ④緊急資材調達 ⑤被害状況の客観的把握として、夜間は八幡平温泉郷に在住の整形外科の鳥畑先生を副本部長として対応し当直の責任者が協力する体制を設定した。職員の救急体制はあらかじめ現場への到着所要時間を把握することにした。有事の電気・ガス・電話・上下水道等の途絶を想定して自家発電の確認、発動機の整備、特に村との無線通信体制の相互連絡体制の確立を急ぐこととした。さらに緊急避難用の携帯食料品を患者さんおよび職員分2日分の確保を実施した。その他医療チームの編成、救護所の設置、退避可能な患者さんおよび要担送の患者さんの識別をあらかじめ行い、病棟看護師があらかじめ認知しておく体制をとることにした。さらに、防災複合訓練を実施して搬送班、救護班等の機能的役割分担を目標とした訓練を実施した。基本的には「個人の安全保持を確保」を救助活動の目標とし、心がけるような指導を目指したが、十分に実施できたとは云えないという反省がある。

さて岩手山噴火防災訓練が開始されて6年が経過している。本年の平成16年は10個の台風が上陸し、9月1日には浅間山が噴

火し、さらに10月23日には大規模な新潟中越地震が起った。地域住民が全員避難する町村が続出し、地域社会における防災のあり方等がこれほど問われた年はないのではなかろうか。岩手山火山噴火がもし現実のものになったとすれば、水没地域を含む湖水の出現や交通の遮断、さらなる予想を遥かに超えた大きな被害が現実のことになったとしたら、と考えると、これまでの防災訓練では肌寒い感じがするのは私のみではないと思う。

いずれにしても自然災害のみでなく、国際社会情勢の変化は、テロをはじめNBCと云われる様々な災害が起こる世相でもある。これらの情勢に耐える地域社会を作ることは困難であっても被害の少なくなるような地域防災体制の整備が必要であり、そのためには日頃の具体的準備を、積み重ねる努力が必要であろう。

文献

1. 及川慶一:岩手山噴火対策防災訓練. いわて医報 No 570:15-19, 1998, 11.
2. 秋山常朗、岩動孝、及川忠人:平成 14・15年度岩手山噴火対策防災訓練通信情報連絡訓練報告. 岩手県医師会 Home Page 行事欄
3. 及川忠人:日本医師アマチュア無線連盟会報 第45号:27-37, 1998.

岩手山噴火対策防災訓練活動を振り返る

日本アマチュア無線連盟岩手県支部

秋山 常朗 佐伯 嘉則 田山 幸博 佐々木 禎

佐々木 亮二 岩動 孝 中村 昌司 及川 忠人

1. はじめに

1998年(平成10年)に突然降って沸いたような、岩手山噴火の危険があるというマスコミの報道に、九州、そして北海道、今度は岩手県の番かなとの他人事のような、自分には関係のないことのように思われたのは我々だけではなかったと思います。それでも過去の噴火の際に活躍したアマチュア無線家の実績を知っている私どもとしましては、連絡網を作る必要性を考え、盛岡市より見た岩手山噴火の時点で一番関係のありそうな網張地区のアマチュア無線家に話を持ち掛けましたが、噴火は反対側の方なので網張は関係がないとの話で余り乗り気でない様子であった。

多方面からのマスコミ報道がなされ、少し落ち着きを取り戻した平成10年9月3日の午後5時頃に突然に岩手県内を震撼させるような震度6弱の大規模な地震が発生し、その震源地が岩手山西南部であり活断層の変化によることが分かり、滝の上温泉において、孤立した登山者や地熱発電所などの従業員等との連絡が取れなくなり、混乱が続き、電話回線が正常に回復したのは夜間になるという現実と直面した。

日頃携帯電話の便利さに忘れがちであるが、現在の段階では災害時には携帯電話が使用できないと考えることが妥当と思われる。

そのための故に連絡方法としてはアマチュア無線の活用が大きく浮かんでくるわけである。アマチュア無線家は岩手県では推定であるが約10000局位と思われ、いざというときには最も活用できる人数があると思われる。我々のアマチュア無線の設備はそれぞれ違いがありますが、一般の無線に関係のない方にはお分かりにならないと思いますが、私どもの使用する無線装置は警察・消防関係などと比べ遥かに強力な無線機を装備している無線家が多くおります。簡単に言えば、より遠くの相手と通信可能であり、又多くのチャンネルの電波を出すことが出来る等の業務無線には無い特徴があり、この特徴を生かすことが出来るように訓練と連絡網の整備が急務と思われたわけでした。

このような時に突然発生した雫石地区の地震が起こったことを岩手山が噴火したのではと考えたのは私のみならず、多くの方が考えたようで、やはり早急にアマチュア無線によるネットワークを作るべきとの話題が持ち上がり、水蒸気爆発の可能性が一番高いと考えられた松尾村方面にある東八幡平病院アマチュア無線クラブ(会長JA7AOM 及川忠人院長)を中心にネットワークの構築が現実のものとなり、以下一連の防災訓練に参加することになった。

表1 これまでの岩手山噴火対策防災訓練実施時期、市町村会場および参加人員(会員)

平成10年10月18日	松尾村参加10名
平成11年1月29日	滝沢村参加 5名
平成11年10月24日	西根町参加10名
平成12年2月20日	雫石町 不参加
平成12年8月27日	盛岡市青山町参加7名
平成13年2月18日	玉山村参加14名
平成13年11月18日	雫石町参加12名
平成14年12月15日	西根町参加15名
平成15年12月14日	松尾村参加18名

2. これまでの訓練の経過

1) 第1回訓練(松尾村)

松尾村桜広場を中心に平成10年10月18日(日)に開催され、岩手郡医師会の活動に協力する形で参加した。当初テントを設営して無線設備を設置する予定であったが、折からの本番さながらの台風による暴風雨が激しく、会場のテントが吹き飛ばされる事態に遭遇した。岩手県医師会に設置された「訓練岩手県医師会災害対策本部」より岩手郡医師会へ要請があった救護班派遣の要請する「訓練非常通信」を実施して、現場に東八幡平病院の救急車が派遣された。暴風雨の中で急遽、無線設備を救急車内に移動させて、特設八木アンテナを救急車に近接させて装備して岩手山麓アマチュア局との連絡通信訓練を実施した。参加局は18局であった。

2) 第2回訓練(滝沢村)

今回の訓練には、岩手県非常通信協議会よりの通信依頼があり、通信情報を送信する訓練に参加した。訓練内容は国道281号走行中のアマチュア局が滝沢村自衛隊駐屯地付近を走行中に火山泥流による災害現場を目撃して、怪我人の発生をアマチュア無線を利

用して日赤岩手県支部アマチュア無線クラブを經由して、盛岡消防署に連絡した。又、走行中の当会員アマチュア無線局(JE7BGN 佐々木)により日赤岩手県支部アマチュア無線クラブおよび自衛隊駐屯地アマチュア無線クラブとの通信連絡がなされ無事訓練を終えた。

3) 第3回訓練(西根町)

今回の訓練は、西根町役場アマチュア無線クラブを中心に実施された。参加した西根町役場アマチュア無線クラブとの連絡には、日赤アマチュア無線クラブが盛岡市在住のアマチュア局との連絡に当たった。西根町を中心として、それぞれの広域の地域との連絡が取れることを確認することが出来た。



4) 第4回訓練(雫石町) 不参加

5) 第5回訓練(盛岡市青山町)

デモンストレーション等への参加はしなかったが、青山小学校現地対策本部前に、移動して、携帯型小型無線機を持参して盛岡市内の各地との連絡の実験を試みて交信に成功した。

6) 第6回訓練(岩手郡玉山村浜民)

この訓練では、玉山在住のアマチュア無線家に呼びかけて参加を募った。盛岡市在住の有志を含めて近隣の西根町、松尾村等のアマチュア無線家の参加を含めて10名ほどの参

加を中心にして、消防署アマチュア無線家も一緒に災害想定地区に分散して情報伝達訓練を行った。現地対策本部には移動無線車を配備して岩手県内を中心にさらに青森県を含む各地との通信訓練を行った。また対策本部から盛岡市内のレピーター局を中継して岩手県医師会との連絡を取り、応援派遣要請等の通信訓練をあわせて実施した。

7) 第7回訓練 (雫石町)

雫石会場での訓練も玉山村同様に、雫石町内アマチュア無線家に呼びかけて情報伝達訓練を中心に、各地との情報収集伝達訓練を実施した。また対策本部と現地対策本部間のれんらくのほかに、写真電送の実験 (SSTV) を行い、災害想定地区の現状をリアルタイムで画像を TV 画面に映像として現すことに成功した。



8) 第8回訓練 (西根町)

西根会場も訓練には、同様に町内アマチュア無線家に連絡を取り、訓練通信に参加していただいた。訓練の内容としては、例年の各地区との情報交換を初め、上空からの統監へのヘリコプター搭乗状況を写真電送して、現地対策本部の各参加代表者に岩手県知事の現在位置をリアルタイムでお見せした。また岩手郡医師会と協力して、救急車と伴走しな

がら、被害想定者への対応等関係者に現在位置を逐次送信して威力を発揮した。



9) 第9回訓練 (松尾村)

東八幡平病院アマチュア無線クラブを中心として、村役場の対策本部、柏台小学校の現地対策本部および、ヘリコプター救助地区等の場所をあらかじめ役割を設定して松尾村在住のアマチュア無線家のみでなく近隣町村よりの映像通信チームが活躍し、より高度なネットワーク通信を中心に訓練することが出来た。いつもの災害想定地区よりの情報収集の他に、地区民の非難場所に災害想定地区よりの現状を TV 映像で紹介して、避難会場の地区民にその映像を供覧して驚かれた。

また対策本部では県民の森より飛び立つヘリコプターのリアルタイムな写真電送を各参加機関の皆さんに紹介した。当日は濃霧のためヘリコプターが飛べずにすぐ着陸して患者輸送を取りやめるハプニングがあり、その模様をいち早く対策本部の皆さんにお見せして、会場の皆さんがアマチュア無線による情報伝達の早さに感心していた。

3. 反省と展望

平成10年6月下旬に岩手山噴火の危険性が指摘され、地元のアマチュア無線家を中心にアマチュア無線ネットワークの構築を急いだ。この間日本アマチュア無線連盟岩手支部の多くのアマチュア無線家のご支援を継続的に受けることが出来たことは幸いでありました。また年に2回の噴火対策防災訓練にほぼ継続的に参加することができたことは、日本アマチュア無線連盟岩手県支部としても特筆すべきことであった。特に医療機関が地域でどのような立場を持つべきか、災害拠点としての役割の大きさ大切さを痛感する次第である。当初災害時を想定して、アマチュア無線による連絡のみが災害時に活動できる通信手段であることが認識されにくく、訓練を重ねても、訓練に参加する構成員自体が尚、電話が繋がるのは当然とする現実が見受けられ、これではいけないと反省させられたのである。特に大災害の初動時のホットラインのような情報交換システムの重要性が理解することが出来たが、それに併せた訓練は具体的に極めて行いにくく、また訓練対象となりにくいことを痛感した。それでも消防・警察・行政には無線連絡システムが存在するが、医師会にはその存在がなく、今

後の工夫が尚必要な分野であることを痛感すると同時に常時のシステムの維持が必要であることを胆に銘じておくことが大切である。

平成16年はくしくも、岩手山噴火防災訓練を開始してから満6年を経過する年であり、その年に岩手山登山が全面解禁されたことは、この火山活動も終息に向かいつつあると理解して良いのだろう。しかしながら、例年になく頻回の台風の異常なまでの被害の広がりや、新潟中越地震等の災害をテレビや新聞報道で見る限りでは、明日はわが身という感をぬぐえないものがある。災害はいつでもどこでも起こりうることを想定しつつ、非常時に備える努力を怠ってはならないと思う。これらの体験から日常の定時通信の恒常化はもちろんであるが、無線設備の整備および安定化電源の確保ならびに携帯電源設備の配備に日頃の注意が必要であることは当然のことである。しかしながら、残念ながら実態はそれと程遠いのが現実ではなかろうか。地域防災の要は行政まかせのことではなく、日頃の地域住民の支援と協力があつてこそ、その地域が災害に強い地域に生まれ変わることが要望されていることに気を留める必要があると思われる。岩手山火山活動への防災訓練を通して得られたそれぞれの地域における職種を超えた協力の輪を今後も維持しながら、このような混迷する不安定な国際社会の背景においては地域防災意識の高揚につとめる努力を怠ってはならないと思う。

これまでの訓練の内容を振り返ってみると、当初はアマチュア無線家の交信訓練が主体であったが、その内容が被害者への救助等

の対応との結びつきや、災害の状況の情報伝達訓練が主体になっていった。さらに、これらの内容と平行して、無線電話通信のみでなく映像送信による災害現場での実情を電送する範囲に拡大し、さらに昨年の松尾村での訓練では、動画送信も可能なアマチュア無線訓練へと内容が質的に向上していったことは特筆すべきことであった。それぞれの地域におけるアマチュア無線クラブの日常活動の質的な高さがこのような訓練を可能としたとは思いますが、防災訓練への対応についての真剣な取り組みに敬服し、また感謝に尽きないものがあります。

今回の防災訓練への参加を通して、多くの方々の自発的なご支援を頂いたことは、紛れもなく地域社会のあり方が、単に平面的な範囲等の意味に限定されるのではなく、同一の目標を同一の方向で、それぞれの職責を超えて協力し合うという、その機能的態度の中こそ、地域社会の躍動的機能的意味が含まれ、また地域そのものの意味が潜んでいることにきづくべきでありましょう。またこれまで

の活動の中に、それらの実践活動の芽が含まれていると考えることが出来ると思う。高齢者も障害を持つ人も、老若男女併せて、安心して生き生きと、住み慣れた人々と共に安心して暮らしていける地域社会を職責の枠組みを超えて、目指すことこそ、新しい時代の地域社会の目標とならなければならないことをこの一連の活動を通して学ばされたと思ひ、沢山の方々からのご支援によりこれらの防災活動に参加できたことを感謝しつつ筆を置きたい。

参考文献：

1. 及川 慶一：岩手医報 No 570:15-19, 1998.
2. 及川 忠人：日本医師アマチュア無線連盟会報 45号:27-37, 1998.

(「1998年岩手山噴火危機対応の記録」から許可を得て転載。2005年5月発刊)

電磁波の健康影響に関するシンポジウム

JH3AEF 東條 純一 (大阪府)

経済産業省、総務省が主催する「電磁波の健康影響に関するシンポジウム」が昨年11月17日、京都市の京都府民総合交流プラザで開催された。平日の午後であり、大阪と京都は近いとはいえ、夕方の診察に間に合わせるにはなかなかの強行軍であった。お国の二つの省

が主催するシンポジウムとあって、入り口での受付が厳しいこと、聴衆の多いのに驚いた。皆さんのふうていからみて、お役人、企業の研究機関の人達が多数をしめているようにみえた。内容は非常に濃いものと感じられたが、昨年のMARS 横浜総会の三浦正悦氏の「電磁波の健

康影響」の講演を聴講したせいもあり、門外漢の私にもほぼ理解することができた。

プログラムをご紹介しよう。WHO、経済産業省、総務省の挨拶に続き

1. 世界保健機関国際電磁界プロジェクトの動向
2. 国際非電離放射線防護委員会におけるガイドライン
3. 生物学的研究の概要 弘前大学医学部 宮越順二
4. 電磁波の疫学研究 東京女子医科大学 山口直人
5. 「電磁波と健康」に関する討論会 上記記者による

個々の演題に関する詳説は別の機会にゆずるというよりは、今年の講演会の内容を理解できていれば今シンポジウムの内容の骨子は網羅されていると感じた。

そこで、本稿では当日配布された資料の中から WHO が継続して発刊しているファクトシート(WHOとしての見解集)の一つを紹介することにした。これは WHO が種々のテーマに関し機会あるごとに発刊するもので、ここに紹介するのは No.296 2005年12月の号、電磁界と公衆衛生:「電磁過敏症」である。かなり以前のMARS 総会の PLC に関する討論のなかで、会員からこの問題に関するご発言があった。たしか JK1AIN 中村幸伸先生だったと記憶する。そのことが私の頭に残っていたこともありこのテーマを選んだ。原著は WHO、上述のシンポジウムで配布された資料に参考資料として使われたもので、すでに和訳もされていた。大部分は原文どおり掲載したが、難解をきわめる部分は日常用語を使用して平易な文章に改めた。

WHO ファクトシート No 296 2005/12

電磁界と公衆衛生

電磁過敏症と電磁界曝露との間に現時点では因果関係を示す科学的根拠なし

世の中には技術革新により色々な種類の電磁界発生源が急増した。これ等の発生源にはビデオディスプレイユニット、携帯電話機とその基地局なども含まれている。これらの機器は我々の生活を豊かに、安全に、そして便利にしてきた反面、装置から放出される電磁界が、健康影響に対する潜在的な懸念をもたらした。

これまで電磁界曝露によるとする健康問題を訴える人はさほど多くはなかった。しかし一部には、軽い症状の人では出来るだけ電磁界を避けることで影響が出ないように努めてきたと訴える人もいるし、深刻な影響を受けたため仕事を辞めたり、生活スタイル全体を変えなければならなくなったと訴える人々もいる。この電磁界への過敏性は一般的に「電磁過敏症」あるいは EHS (electromagnetic hypersensitivity) と呼ばれてきた。

本ファクトシートは、現状で解っていることをお伝えし、そのような症状の人々を援助するための情報を提供する。提供する情報は WHO 電磁過敏症ワークショップ(プラハ、チェコスロバキア、2004)、電磁界と非特異的健康症状に関する国際会議(COST244bis,1998)、欧州委員会報告書(Bergqvist and Vogel,1997)と最新の文献レビューに基づいている。

電磁過敏症 EHS とは何か?

電磁過敏症は様々な非特異的的症状と特徴づけられ、悩まされている人々はそれが電磁界への曝露によるものだと捉えている。最も一般

的な症状は、皮膚症状(発赤、チクチク感、灼熱感)神経衰弱症、自律神経系症状(倦怠感、疲労感、集中困難、めまい、吐き気、動悸、消化不良)などである。これ等の症状を見ると、既知の症候群の一部とはいえない。

電磁過敏症は多種化学物質過敏状態(化学物質過敏症)即ち、電磁過敏症とは別の障害である化学物質の低レベル環境曝露に伴う症状に似ている。電磁過敏症も化学物質過敏症も、はっきりした毒性学的、生理学的根拠がなく、独立した検証も出来ていない一連の非特異的症状と特徴付けられる。環境因子への感受性というより、一般用語的には本態性環境非寛容症で、この用語は WHO の国際化学物質安全性計画が 1996 年にベルリンで開催したワークショップを起源としている。本態性環境非寛容症は化学的病因や免疫学的感受性、電磁界感受性などを何ら意図しない記述語句である。本態性環境非寛容症は、人々に悪影響を及ぼす、医学的に説明できない類似した非特異的症状を併せ持ち、多種類の不調を引き起こす。しかし、電磁過敏症という用語が一般的に用いられているので、ここではこの用語を用いることとする。

有症率

一般の人々の中で電磁過敏症の有症率推定値は非常に幅広い範囲にある。ある産業医学センターの調査では、電磁過敏症の患者を人口 100 万人あたり数人と見積もっている。しかし、市民グループの調査ではそれよりかなり高い推定をしている。電磁過敏症として報告されている患者の約 10%は重症と考えられている。

また、電磁過敏症の有症率は、かなり地域的

なばらつきがある。産業医学センターの調査では有症率は英国、オーストリア、フランスよりもスウェーデン、ドイツ、デンマークで高くなっている。スκανジナビア諸国ではビデオディスプレイに起因する症状が主流で、欧州の他の国と異なり皮膚症状が主訴となっている。電磁過敏症の人々が訴える症状は一般の人々の中にも良く見られる症状である。

電磁過敏症の人々に関する研究

電磁過敏症の人々が原因であると考えている電磁界を、過敏症の無い人々に曝露させ、その変化をみるいくつかの試みがおこなわれた。一番の狙いは制御された実験室内の環境で、過敏の症状を引き出すことが出来るかどうかにあった。

その結果、電磁過敏症の人々が過敏症でない人々に比べて、より正確に電磁界曝露を検出することが出来るものではないということが判明した。また、十分に制御され、二重盲検法により実施された研究でも、電磁過敏症者の症状が電磁界曝露に全く一致しないことも判明した。

これ等の実験により、電磁過敏症の人々が訴える症状は電磁界とは関係のない環境因子により生じるのではないかということが示唆された。例えば蛍光灯のちらつき、ビデオディスプレイの眩しさや、他の視覚的問題、コンピューターワークステーションの人間工学的不適切さが関係しているのかもしれない。その他にも室内空気の汚染、職場や生活環境でのストレスなどが関係しているのかも知れない。

これらの症状の原因が電磁界曝露そのものではなく、電磁界の影響を恐れる結果としてのストレス反応というような精神医学的条件による

のかも知れないとする示唆もいくつかある。

結論

電磁過敏症は多様な非特異的症狀として特徴づけられ、症状は人により異なっている。症状は確かに存在しているが、その重症度には非常に広い幅があり、どのような症状を引き起こすにせよ、影響を受ける人にとって電磁過敏症は日常生活に支障をきたす可能性のある問題である。しかし、電磁過敏症は明確な診断基準を持たず、その症状が電磁界曝露と関連するような科学的根拠もない。さらに電磁過敏症は医学的診断名でもなく電磁界曝露と明確な因果関係が証明されているわけでもない。

臨床医はどう対応すべきか

電磁過敏を理由に来院する患者にたいしては、症状と臨床像に焦点をしばって対応すべきであり、職場や家庭での電磁界曝露の低減や除去について立ち入るべきではない。そのためには次のような諸点に注意する必要がある。

1. 何等かの特別な条件が症状の原因になっているのではないか、医学的に検索し、必要であればそれに対する対応と処置を講ずる。
2. 精神医学的または心理学的な条件が原因になっているのではないか、心理学的鑑定をおこない、必要であればそれに対する対応策を講ずる。
3. 1. 2. 以外にも、症状の原因となりうる職場や家庭環境についても考慮の必要のある場合がある。即ち、屋内空気汚染、過剰騒音、照明の不備やちらつ

き、人間工学的因子など、また職場環境におけるストレスの低減や他の改善策も考慮してみなければならないこともある。

電磁過敏症の状態にある人の症状が長く続いたり深刻な場合には、治療は主に症状や機能障害の軽減に向けるべきである。この場合、医師(医学的、心理学的側面に対処する)と保健師(環境因子を検索、同定し、必要あれば排除、軽減する)の密接な協力のもとで実施されるべきである。

医師と患者との間には友好的かつ効果的な関係を確立し、患者が症状の改善策を見出すための援助を惜しまず、いずれは職場復帰し、通常の社会生活が送れるようになることを最終の目標とすべきである。

電磁過敏症の人々は

電磁過敏症の人達にとっては、医師など専門家による処置とは別に、ボランティアグループの人達による援助も有益なものとなり得ることを忘れてはならない。

政府は

政府は電磁過敏症の人々、医療に当たる人々、雇用主に対して電磁界の潜在的な健康有害性について、適切でバランスのとれた情報を提供すべきである。

情報には電磁過敏症と電磁界曝露との間に、現時点では科学的根拠が存在しないという明確なメッセージを含めるべきである。

平成 19 年初頭の出来事

JR1VUF/AH0BB 河野 一男(東京都)

1) 急性胃炎による胃痙攣発作の凄さ、地獄の苦しみ

新年1日早朝、今までに経験したことのない左上腹部の痛みで叫び声を上げたので、隣のベッドの家内が飛び起きた。痛みは絞られる様な、錐で切り込まれるように猛烈だが、左上腹部に限局している。慌てて自分自身で腹全体を探ると腹膜刺激症状は無く、左季肋部に小拳大の硬結を触れ強い圧痛があり、胃そのものの様だ。胃炎による胃痙攣の発作だなど覚悟した。我々医者の方識として胃痙攣発作は多くは胆石によるものである。

私は今まで“如何物食い”で何でも食べ胃のトラブルを知らなかった。しかし膝の痛みでNSAIDs(鎮痛剤)を連用しているので何時かは薬剤性胃炎に襲われることを覚悟はしていた。しかし全くの前兆も無く此れほど突然でしかもこのような激甚な痛みとは想像していなかった。

持ち合わせていた鎮痛剤ストロカイン、コリオパン、ブスコパン等を使うと良く効くが、どれも2~3時間しか持たない、腹膜炎ではなし、家族が救急車を呼ぼうとするのを止めて、それは正月だからどうせ病院に運ばれても胃カメラをしてくれるわけなし、XPを撮って点滴をやるだけだからといって、じっと我慢して、24時間続く激しい痛み、飲まず喰わずでじっと日数を稼いだ。4日にやっと頼み込んで近所のクリニックで胃カメラをやってもらうことが出来た。

その先生と一緒に覗き見たその映像のオゾマシサ!!自分の胃の中なのに、すさまじいさ!!今までに見たことも無い程の強い炎症は

広範囲で、胃壁全般、噴門部より壁壁に沿って蛇行する棍棒状の腫脹と糜爛、一部に凝血の付いた小潰瘍の散在、鎮痙剤を使ってるのに胃の粘膜の動きは完全には止まらず、うごめいている。その先生もこれでは痛むのは当然だと言う。相談して薬をもらって帰宅した。

しかし激痛は猶も持続して鎮痛剤を連用、1口も食べられず、その後その先生がご好意で往診して点滴をやってくれました。又外科医の息子が静岡の病院より駆けつけ点滴をやってくれた。しかし何れもほんの一時的で11日になって、やっと痛みの発作は止まったが、息子が“脱水もひどいし自家で頑張るのはもう限度だ入院しろよ”とさとされ12(金)日近所の病院に入院した。無気力、半昏睡、血圧が100mm以下に下がり、2日間無尿だった。点滴が1000ml以上入ったところで小便も出だし、大分楽になった。下剤も飲み、排便もあって更に楽になった。翌13日(土)早朝激痛が起こったがブスコパン注射で直ぐ収まりその後は痛みは全く起こらなかった。

その間エコー、CTなど色々精査を受けて、今回の胃炎の他に全く問題は無く、幸いなことに各種のXP画像で動脈硬化、石灰化の程度が今まで考えていたより少ない事が判りもう2~3年は生きられそうなのが今後の気休めになった。都合5日間の入院で16日(火)退院した。体重69kgから63kgに減少し、トイレは補助車によりかかって歩き、19日の夜から始めて居間

の食卓に坐って食事を摂った。

結局痛みの持続は11日間、飲まず食わずは12日間その後続く食欲不振、起き上がれず全く歩けず臥床していたのは3週間、という具合で急性劇症型薬剤性胃炎という地獄を彷徨った。成書によると薬剤性胃炎は普通3~4週間で治癒するという。胃のもたれ感もとれすっきりしたのは28日(4週間目)であった。

30日胃カメラを受けた。胃の炎症は殆ど治まり、糜爛が僅か残っている。瘢痕が鑿壁に沿って点在するという所見で、あの凄まじい炎症が何処へいったのかと信じられない思いであった。

しかし瘢痕の点在を見ると結構炎症は激しく粘膜下迄及んでいたのだなと感じた。

今後は NSAIDs が使えないので膝の痛みを如何にコントロールするか。一気に10%以上落ちた体重及び、特に80才を越えた老人の筋力低下の回復を図るためのリハビリは本人が非常に努力する必要がある。

早くロールコールに出たい、今年はサイパンに移動運用したい、モービルによる移動も運用もしたい。温泉にも行きたい、旅行にも行きたい!!!

2) 認知症患者にさせられた一日

平成19年年頭に胃痙攣発作に見舞われ痛みは持続し、飲まず喰わず、痛みの発作は収まったが脱水症状が激しく自宅での療養は無理とのことで病院に入院した。点滴が行われ、1000ml 位は入ったところで尿も出始め身体が楽になった。便も出ていなかったのので下剤も飲み、翌日には排便もあり、更に楽になった。しかし10日間以上飲まず喰わずだったため脱水症が激しく一日中眠って何も考えず、半昏睡、半意識障害の状態が続いた。(入院2日目)午後家内が来た時も同じ状態で、排便をしようとベッド側の腰掛トイレを使おうとしたら、続いていた泥状の下痢のため粗相をしてしまった。大便是洩れなかったようだが周囲が小便の洪水となった。直ぐ介護士が来て家内と後始末をしてくれた。その間私自身はベッドに横になったきりで何もはっきりと覚えていない。その後個室が空いたとのことでベッドごと移動が行われ個室に

移ったが記憶は殆ど無い。

翌日(入院3日目)朝小便をしようと思ってパジャマの下のパンツを下げようと思ったら何やらおかしい。確かめるとどうもオムツを履かされているみたいだ。ショック!!慌てていくら探しても外せない。以前より患者さんの履いているのを見た時に確か何処かマジックテープで止めてあるはずだ。しかし判らない。半分意識で且つ指にも殆ど力が入らない状態では、如何んともしようがない。諦めてやっと全部を下げて尿瓶で小便をすませた。オムツを半分引き上げた状態でまた寝込んでしまった。

主治医に起こされ、“胃の方は殆ど良いようですね。今日の午後念のため腹部 CT をとり、明日まで大きい変化もなかったら、明日退院出来ますね。”といわれた。これ等のことも半分は理解し、応答していたようだ。9時に CT に連れて行かれたがどうもオムツのことをしきりに気に

していたようだ。

病院には色々の職種の人が居て病室に夫々出入りするようだ。早朝屑籠を始末に来る人、床の掃除をする人等々、これ等も半意識の中で経過し、何時だか判らないが確か前日にも来たと思われるが、“身体を拭くタオル”ですと言われて起こされた。“身体を拭く御手助けをしましょうか”、“明日退院ですし午後から家内が来るのでいいです”などの応答をしたつもりだが、モグモグ言っている間にフトンがめくられた。半分下げたオムツを多分見たのであろう(半ボケの年寄！何かブツブツ言っているよ)、手際よく、たちまちパジャマのズボンが下げられ、何度試みても外せなかったオムツがバリバリの音と共に外され白昼の日向(南の個室は日当たりがよく、むしろ気持ちはよかったが)に全身が晒された!!! クリームか何かが下半身に塗られタオルで拭き取られた。オムツが又履かされた。パジャマも履かされた、一丁あがり!ほんの数分もかからなかったであろう。私もこの瞬間的な出来事をよく覚えていないし、従業員の顔も覚えていない。実態はその従業員は前日のその部屋の病人と本日の病人が同じなのか入れ替わったのか疑問を抱かず、朝のミーティングで話がなかったのか、オムツを履いた一部の認知症患者の取り扱いしか教育を受けていなかったのであろう。

私は昨年まで療養型の病院に2年間勤めて

いた。そこには入院患者の60%以上は高度の認知症で5~60人の患者さんが全く応答は無く、身体も動かさず、意識も全く無く、目を見開いた者、閉じたもの、勿論感情も無い。ただ経管栄養で時間毎に製品化された食事を注入され、定時の体位変換、オムツ交換、週2回の入浴のスケジュールで数年間生きている。諸外国ではかかる状況の患者は非常に少ないという。(意識ある内に延命処置を希望するのか否か家族共々十分に意見交換するようだ。日本では中々馴染めない)始めは患者さんが自分自身で食器を使って食べるが、認知症が進むと食べられなくなり、介助して食べさせる。更に病状が進み嚥下不能となり、誤飲を起こすようになる。家族を呼んでこれ以上は経管栄養するしかないと説明する。本人も意識が無く、意志表示が出来るわけで無く、家族も已む無く経管栄養を承認するしかない。すると数年間は生存する。持続導尿よりはオムツの方が尿路感染による発熱が少ない、管理もし易い等々でオムツの患者さんを多数見てきた。介助者が2人1組でオムツ交換、ハイ一丁上がり次から次へとやっている。今回自分自身が丁度丸一日オムツを履いた姿で半昏睡の状態だった。自分では何も出来なかったとはいえ、これはとても悲しい出来事であった。この際遺言状には延命処置、蘇生処置は行わないで下さいと書き加えておくことにする。

3) 呼吸器疾患患者 6 床病室に入院して

年頭より胃炎による胃痙攣の発作を起こし、飲まず喰わず2週間で脱水症状が激しく緊急

に入院した。しかし消化器科のベッドが無く呼吸器科のベッドに入院させられた。その病院は

戦時中に都心の外れ多摩川の河畔の高台に作られた結核の病院で現在でも呼吸器疾患が得意である。しかしベッド300有余を擁し内科各部門も整備されている。他の科も殆どあって繁盛している。急患、夜の対応なども親切である。何しろ私の家から車で10分から15分なので便利であるということで入院した。お頼みした副院長である内科部長は呼吸器が専門であるが消化器に回すことも無いでしょうといって直接面倒を見てくれた。

入院したのは6ベッドの大部屋の窓際のベッドだった。大部屋なのでカーテンに遮られ見えないが各患者さんの動きは手に取るように判る。しかし自分自身の病状が脱水症状が強く、血圧も低く、半昏睡で殆ど眠っていたので当然脳の血めぐりも悪かったであろう。

呼吸器疾患といえば、約50年前私が外科になりたての昭和30年代前半に胸部外科に回された。当時数年間は肺結核の手術が全盛で毎日肺結核の患者に接し、懸命に呼吸音を聞き、週二回の胸部手術に没頭した時代を思い出した。

今回呼吸器疾患の患者さんの各種の呼吸雑音を身近に聞いたわけである。同室の患者さんは多かれ少なかれ呼吸雑音を持ち又夫々“咳き”の発作がある。(1)喀痰が詰まりそれを出そうとして努力的に激しく持続的に強く咳を続け、体位を変えているのかしきりに体動し暫くして喀痰排出の音と共に急に静かになる患者さん。恐らくは気管支拡張症か、一部に空洞で

もあって喀痰の溜まる場所があるのか？(2)長く続く咳の発作、ヒューヒューと他の異音を伴い、手持ちのスプレーを取り出し噴霧すると咳の発作が収まる患者さん。気道狭窄、COPD でもあるのか？(3)軽いが絶えず不連続の咳をする患者さん。(4)部屋の入り口の若い研究者風で学校か、会社の研究所かに属しているらしい患者さんは普段は割合に何もないうので、友達が入れ替わり立ち替わり尋ねてきて難しい学問の話をしたり図を描いたりしている。仲間の1人がこの病院の医者らしく病院の上司の意見を聞いてくると其れを本人に説明しているようだがどうも気胸の様だ。土曜日の夜になって時間は判らなかったが消灯前か後か(私は自分自身時間の感覚や暗い明るい全く判らなかった)呼吸困難に陥って大分苦しがあった。ポータブルのXPが持ち込まれるや何やらで大騒ぎになった。私は不勉強でよく判らないが、弁状の開放性気胸でもあって陽圧にでもなったか等と考えている内に寝入ってしまった。(5)また器械の取替えという患者さんが2人程入れ替わりに入って来た。何処に何の目的で器械が入っているのか見るすべも無い。外来か何処かで処置をしてもらおうようだ。この患者さん達の発する呼吸雑音も変わっていた。

個室が空いて移る前の賑やかな2日間であったが興味があった。私が上記のように半昏睡の状態であったので耐えられたが正常の意識ではあの病室では夜眠れず長くは同室出来ないと思う。

槍ヶ岳診療所

JA1FF 国府田 守雄(東京都)

慈恵医大が開設している、日本で一番標高の高い所、3000m、にある診療所、肩の小屋に隣接する槍ヶ岳山岳診療所に、今年の夏休みにもボランティアで4日間滞在して仕事をしてきた。一緒に仕事をする看護師達も、交通費を自分で出し、有給休暇を使って参加してくる。発電機で作った100ボルトの交流電気、時間外はソーラーバッテリーに切り替わるのだが、ヘリコプターで荷揚げしたプロパンガス、ポンプ3台を中継に使う下りの沢からくみ上げた水、3度の食事や10時、3時のオヤツ！などは、小屋の提供である。

例年は、3泊4日位の日程で仕事をしてから、自分の遊びの山歩きをして帰宅するのだが、今年は、仕事に入る前に、回り道をして遊んでから、槍ヶ岳に登る事にした。

JR3HGY, 土屋Dr.が、歩いた話を聞き、約6年前から歩きたいと思っていた、島々谷から徳本峠を越えて上高地に入る昔の道である。かのウエストンが上高地に入るときに使った沢沿いの道だが、バスが釜トンネルを通過して上高地に乗り入れている現在では、よほどの物好きか、大学山岳部が訓練で登る、途中までは岩魚捕りの連中が入るのだが、にすぎない。毎年のウエストン祭では、参加者が必ずこの道を使って、上高地に入る事になっている。だが、16kmほどあるこの山道は、今年の長野県の豪雨でやられ、橋は落ち、道は崩落して通行不能、ウエストン祭も釜トンネル回りに変更したと言う。役場に問い合わせると、通行止めと言うが、小屋の人に聞くと、危険ではあるが、徒渉の準備

などをしっかりしてくれば、何とか登れると言う。但し、今年登った人は10人くらいしか居ないので、覚悟をして来るようにということで、まあ行ってみるかということになった。高崎在住のNガイドと二人、テント泊の準備、沢に入れるように予備の靴を持ち、川沿いの、林道の舗装終了点まで車をいれる。何台か車が止まっているが、岩魚釣りの人達のように、山に登りそうな人は居ない。道のしっかりした二俣付近まで遡行して、釣りをする、其の先の道は、崩落で大変だ、などと話して歩き出す。4輪駆動なら入れそうな無舗装の道だが、ところどころで路肩が崩れ、幅が狭まり、車は入れない。二俣の砂防ダムから、左、細い道に入る。すぐの橋は修理してあり、問題なく渡れる。その次の鉄製の頑丈な橋は、基礎もろとも川の中にひっくり返り、渡れない。早速、少しでも浅い所を探して、ひざ上付近まで流れに入って徒渉する。冷たい水が、かなり速く、流されそうで、注意深くゆっくりと渉る。其の後も、急な斜面に付けてある道が完全に無くなり、高い所まで一度登ってから、安全な斜面を横切っていく。また沢に降り、徒渉。時には、偶然なのか大木が倒れて流れを横切り、其の上を這って渡れたりする。木の橋が、振じれて落ちている所では、空中に突き上げている橋の側端にぶら下がるようにして、足場を探して対岸に渡る。「岩魚留」の小屋に着くが、全くの廃屋になり、沢から引いていた水槽も、壊れて水無しである。ここからは、沢筋から道が離れるので、荒廃しているが、何とか歩ける道になる。一気に峠まで登るつもりだったが、かなり時間もか

けたし、疲労もあるし、途中の快適そうな平坦地、テントが一つ張れそうな、を見つけ、今夜のねぐらにする。

石を積み、枯れ枝を集めて焚き火の用意をする。Nガイドが一寸姿を消したと思ったら、大きな岩魚を二匹、おかずに捕ってきた。火を起こし、細い枯れ枝に刺して岩魚を炙る。お湯を入れて置いたアルファ一米が出来上がり、魚が旨そうなおいがして、さあ、というときに、塩を忘れたと言う。考えているうちに、インスタント生味噌汁を持っていることに気づき、味噌焼きの完成である。川の流れの音を聞きながらの夕食、疲れもふっとんでしまう。

翌朝は、早く出発して、徳本峠に登りつき、眼下に広がる上高地、梓川の流れ、対岸に聳え立つ明神、穂高岳などの岩山の眺めを楽しんでから、上高地に下る。槍沢のテント場で、テントの入り口を開いたまま、寝袋の中に入り、満天の星を見ながらうとうとする。至福の時間である。翌日は、槍沢を槍の小屋に向かって登り、10時のオヤツに間に合う。その後は、小屋の脇にある診療所で、三食、10時と3時のオヤツつき！昼寝ありで、朝晩に診療の仕事をしての、3泊4日を、3000mの日本一標高の高い診療所で過ごした。

JH2QBQ/MM 丸山先生ご夫妻の 屋久島クルージング 1

4月25日早朝6時30分、志摩ヨットハーバー出航、那智フィッシャリーナに向かいます。9時を少し過ぎた頃より風速が強まり白波が立ってきました。漁船が沢山沖の方から全速で戻ってくるのをおかしいな一と試みてみると、急速に天候が変わり暗雲が立ちこめ時々35ノットオーバーのブローが来るようになりました。急いでダジャーのサイドを閉めようとデッキに出た瞬間、大波を被って膝から下海水に漬かってしまいました。自動操舵もギブアップしてしまいヨットが一回転してしまいました。家内は舵輪にしがみついてバウが振られないように必死です。私の方は又船酔いに罹ってしまいました。クルージングの初日は船酔いするのが恒例になってしまいました。しばらくは家内に頭が上がりま

せん。途中賀田湾にでも入ろうかとも思いましたが、9時間20分かかって那智フィッシャリーナに着きました。この係留料は安く2日で630円でした。こう言う所が彼方此方にあると助かりますね。



那智フィッシャリーナのセレナ

歩いて10分程的那智駅二階に(丹敷の湯)と言う温泉があり、早速入ってきましたが疲れが一気に吹っ飛びました。明日は潮の岬を越えて周参見に行きます。

4月26日、那智を7時出航、周参見に向かいます。潮の岬を過ぎるあたりから黒潮の影響が出だし艇速が3ノット以下に落ち出しました。回りを観ると潮の流れが見え鳴門海峡を渡っているようです、岸よりにヨットを進めてやっと4ノットをキープしました。一時間遅れの午後1時30分無事周参見に着きました。歩いて30分の枯れ木灘温泉に行きましたが、丁度温泉の前の岸壁が一艇分だけ空いているので次回はここ

に泊めようと思います。明日は雨の予報なのでここで天候待ちをさせられそうです。



潮岬灯台

屋久島クルージング 2



周参見港のセレナ

4月28日6時、周参見を出て四国東岸の牟岐に向かいます。さすが紀伊水道すんなりと通してはくれませんでした。真中あたりで風速30ノット、時々大きな波を被りダジャーの上を砕け波が飛んでいきます。牟岐に近づくと今度は横波が押し寄せて船は激しくローリングします。9時間かかって疲れ果てて牟岐に着きました。岸壁では真壁さんがもやいを取ってくれました。

又車で20分程の鬼ヶ岩温泉につれていってくれ、すっかり疲れが取れました。

4月29日6時、牟岐出航。室戸岬を回りこんだ所の室津に向かう。途中から雨が本降りとなり視界も悪くなってきました。うねりに翻弄されながら岬をまわっていると、慶応カラーのヨットが私達の目の前を横切っていきました。同じように苦勞して航行しているヨットをみて心強く感じました。室津に入ると以前お世話になった作業船太陽丸が岸壁に泊まっていたので藤本船長を訪問、又作業船のお風呂に入れてもらい洗濯までさせて頂きました。

4月30日6時、室津出航土佐湾を横断して須崎に向かいます。南からのうねりと波でローリング(横揺れ)が激しい。家内は寝ていてコックピットの窪みに落ちそうになる。その後はハーネスをウィンチにかけて寝ています。今年は幸いな事にシイラ漬けの孟宗竹の束ねたのが一

つも見当たりませんでした。7時間30分の間両足を踏ん張り片手はなにかに掴まっていなくて飛ばされそうになる航海はとても疲れました。須崎に着くと岸壁には古谷さんが待っていてくれるやいをとってくれました。午後からは隣町の黒潮本陣と言う旅館のお風呂につれて行ってきました。露天風呂からの眺めは土佐湾を一望出きる素晴らしいロケーションで、我々が入ってきた須崎港も眼下に見下ろす事が出来ます。又居酒屋でその土地の魚介類をご馳走して頂きました。

5月1日、今日も6時出発。足摺岬を越え四国西南端土佐清水に向かいます。岬までは正面からの波でパンチング激しいも潮に乗り快適な走りでしたが、岬を越えた途端真横からの波を受けローリング激しく港に入るまで収まりませ

んでした。港に入ってから漁師さんに聞いた話では都井岬あたりを4ノットの潮が東に流れていて、このあたりも波の状態が悪く漁に出られないと言っていました。4日連続6時出発で少し疲れが出てきたので明日はここ土佐清水で一日休息です。



黒潮本陣前

屋久島クルージング 3

5月2日、今日は休息日。歩いて15分のお気に入りの喫茶トップにてモーニング、わかめスープと野菜サラダ、ハムとレタスのサンドが付いて450円はなんか得した気分、無論コーヒーの美味しかったことは言うまでも有りません。

漁師さんが色々豊後水道の情報を教えてくれる。昨日私達より2時間程後に足摺岬を回ろうとしたカツオ船が、波が悪くて引き返したと言う話をきいて、私達も、もう少し遅かったら土佐清水まで来られなかったと思いホッとしました。日本沿海の気象は時間単位で変わるので気が抜けません。毎日自然の中に身を置いていてめまぐるしく変わる気象の変化を体験していると何か大きな力を持った神のようなものの存在を信じるようになります。

歩いて15分位の所にある足摺黒潮市場に行きました。連休中とあってお賑わいでした。土佐清水名物ぺら焼きを食べましたが、てんぷらを入れた薄手のお好み焼きでまあまあ美味しかったです。対岸にある鹿島神社にお参りして航海の安全を祈りました。停泊場所のまん前のヤンマーから飲料水を200ml入れさせて頂きました。ヨットに乗っていると水ほど貴重なものは有りません。すごく幸せな気分になりました。またこの近くにはお風呂もコインランドリーもあり家内は洗濯が出来てお風呂に入れてこんなに嬉しい事は無いと言っています。ヨットでクルージングに出ていると一寸した事でもとても幸せに感じます。



土佐清水鹿島神社からのセレナ

5月3日7時、土佐清水を出て沖ノ島に向かいます。最初は静かでしたが島にちかづくにつれ風も出てきて白波が立ち始めしづきがかかるようになる。4時間あまりで沖ノ島に着く。港内は最近整備され船を泊めやすくなっていましたが、沖の一字防波堤がつながったため波の逃げ道がなくなり却って悪い波が立つようになったそうです。最近整備された港でこう言う話しを良く聞きます。広島から来たヨットも隣に泊めましたが、あまり揺れるので近くの弘瀬港に移って行きました。本州最高の透明度を誇るだけあって海の色はコバルトブルーでとても綺麗です、揺れはありますが私達はここで一晩すごします。

5月4日6時出航、豊後水道を横断して細島に向かいます。出航以来初めてのナギの航海、つい（太陽がいっぱい）のテーマソングが口をついで出ます。水道中ごろより潮にのり艇速7ノットをキープ、7時間で細島に着く。着いて間もなく保安庁の臨検があり色々聞かれる。ここは堤防の下がえぐれていてフェンダーが効きません。踏み板の片端をマストに固定して反対側を船のサイドから岸壁に出し船と岸壁が当たらない様にする。少し喧しいが我慢する。



沖ノ島のセレナ

5月5日、細島7時出航、宮崎に向かいます。今日も静かで（太陽がいっぱい）の気分でしたが、途中からうねりが出てローリングするようになる。5時間少しでサンマリーナ宮崎に着く。出航以来殆ど漁港に泊まっていますが初めてのマリーナ泊です。日は揺られずに寝れそうです。以前よりメインのファースリングのシートがほつれるので調べると、ファースリングのシートを逆に巻いてしまったため、中のアルミの板と擦れているのが見つかりました。早速塩ビのパイプを切ってはめこみ水中エポキシで固定しました。早晚シートが切れてメインセールが上がりっぱなしになるところでした。ヨットでは些細な事でも大事に至る良い体験になりました。しばらくここで休養をするつもりです。（続く）



志摩ヨットハーバーの初日の出

サハラ砂漠の初日の出 JH3AEF 東條 純一



サハラ砂漠の初日の出



千変万化の砂の風紋



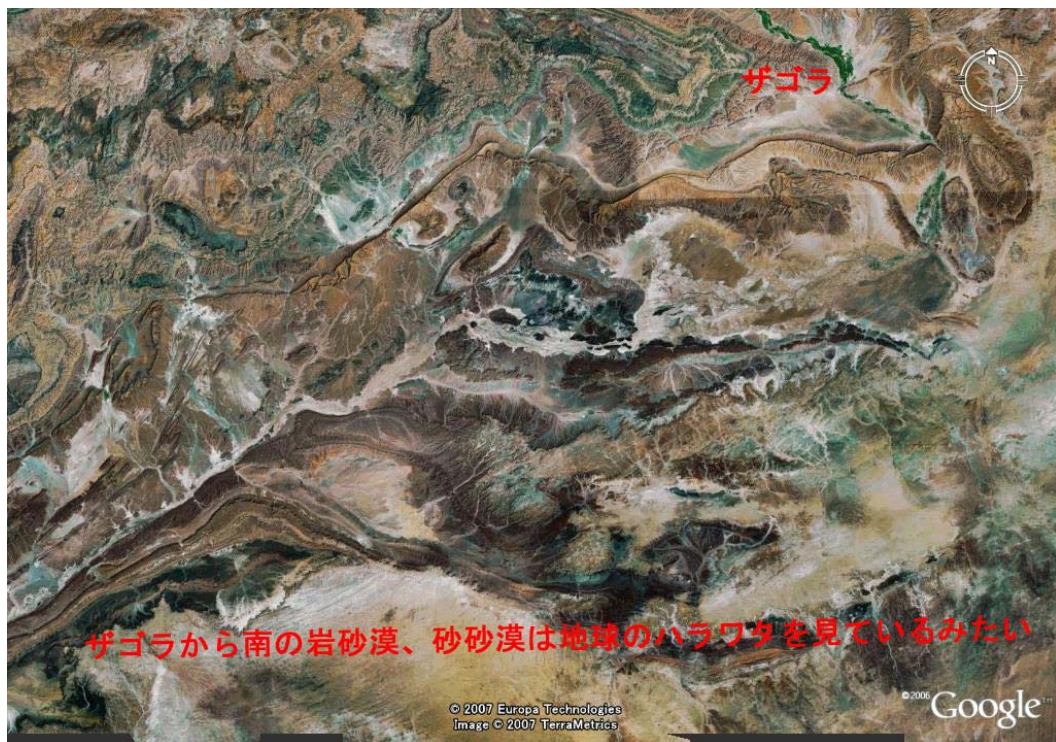
元日の砂漠をラクダで散歩



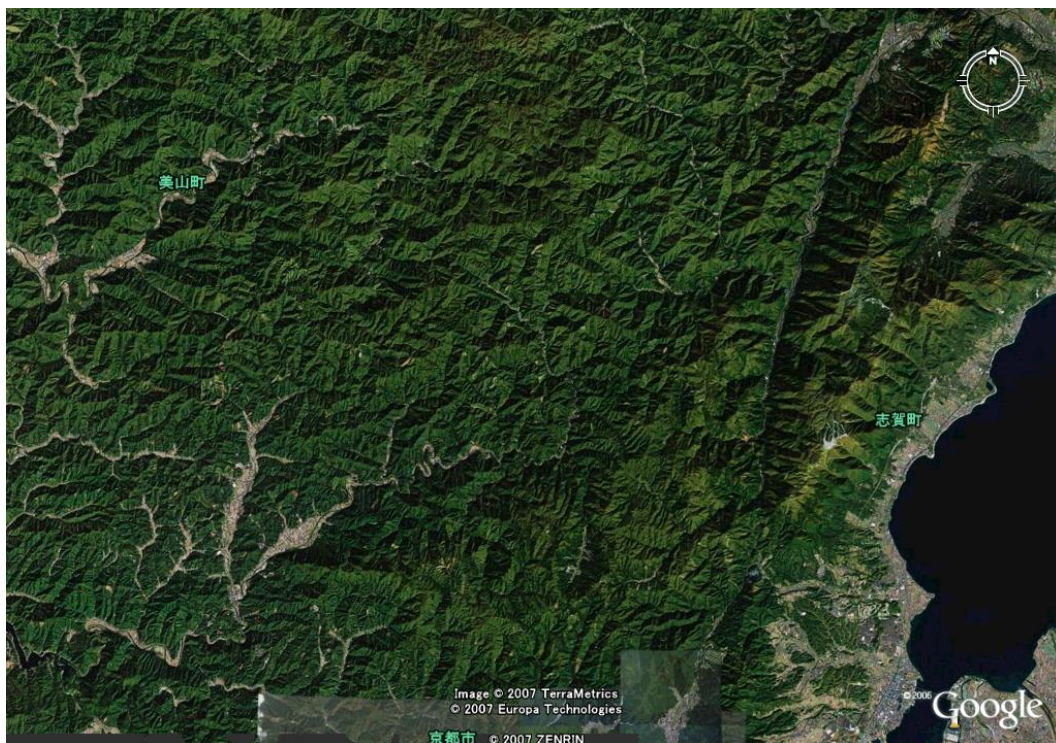
昔の道標が残っていて、、、まで56日ですって



砂漠の真ん中に砂と日干しレンガで創られた要塞村アィドベンハッドウ世界遺産、アラビアのロレンス、ナイルの宝石等など多数の映画のロケにも使われた



グーグルアースによるスペース写真、緑など掃くほどもなく、まるで地球のはらわたを見ているような土漠、岩砂漠、そして砂砂漠



なるほど美しい国日本です。緑がいっぱいの京都北山から湖西地方

庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒577-0058 東大阪市足代北1-16-20

東條医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 06-6781-0076

F A X 06-6781-0078

E-mail jaef.tojo@nifty.com

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただきますので、ご了承ください。

編集後記

今年は暖かい冬で、インフルエンザが流行る前に花粉症を発症してしまいました。地球温暖化が危惧されておりますが、これからの地球は一体どうなりますやら。

間もなく、大阪で4年に一度の日本医学会総会が開催されます。年に一回皆様にお目にかかれるのも楽しみなのですが、なんとと言っても一番の楽しみは、近畿総合通信局に申請中の8J3GAJMCの記念コールでの運用です。何局くらい交信できるのかなあ。当局もちよっぴり頑張っておペレートしようと思っております。残念ながらご参加いただけない各局様とも是非QSOしたいと思っておりますし、記念局開局期間中は会員局とのQSOも『MARS 医学アワード・II』のボーナスポイントの対象となりますので、皆様是非お空に出ていただければさらに盛り上がること必定です。

(DE JF3JON/exJR6PDF/exJH9BJW)

日本医師アマチュア無線連盟会報 第27回日本医学会総会記念号 (第64号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成19年3月1日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail info@nishioka.co.jp